

ご紹介ください 会員募集中!!

会の充実と発展・拡大を図るため
新会員を募集しています。親族、知
人等可能な範囲において、本荘市出
身首都圏在住者をご紹介ください。
お問い合わせ
本荘市産業経済部地域振興課内
本荘ふるさと会 事務局
☎ 0184-24-4181



本 庄 ふ る さ と 会 会 報
第 4 号
平成 4 年 3 月 1 日
編集・発行 本 庄 ふ る さ と 会 会 報
本 庄 市 産 業 経 済 部 地 域 振 興 課
事 務 局 本 庄 市 出 身 首 都 圏 住 居 者 協 会
〒0184(24)4181
◇秋田県本荘市尾崎17
◇東京都大田区北馬込
荒川医院内
題 字 後 藤 竹 清



総勢 270 名が出席して盛大に行われた総会・懇親パーティー

新装なった「目黒雅叙園」で 第三回「本荘ふるさと会」総会 盛大に開催される!!

平成三年度(第三回)総会が去る
11月24日(日)、二四〇名の会員と柳
田本荘市長をはじめ、田口本荘市
議会議長ほか三〇名の来賓・市関
係者の臨席を得て、新装なった目
黒雅叙園で盛大に開催されました。

総会では、荒川会長が「設立当
初は六三五名でスタートした会員
も、現在では八三〇名を超えまし
た。会報の発行や、今年の夏には
花火大会・菖蒲カーニバルに合せ
た「ふるさと訪問ツアー」を実施
するなど、三年目を迎える益々活発
な活動を展開しております。今後
も本会の一層の充実を図ると
ともに、ふるさと本荘のため、首
都圏でのPRマンとして活動して
いきたいと思います。」とあいさつ。
続いて柳田本荘市長が、市の将
来構想や台風19号の被害などを報
告し、「今後ともふるさと本荘の
発展のため、会員の皆さんのご協
力をお願いします」とあいさつし
ました。

その後議事に入り、事業計画や
予算などの審議が行われ、市制四
〇周年の協力事業として募金活動
を進めていくことなどを満場一致
で承認しました。続いて、役員改選
も行われ、会長には荒川さんが再
任されました。



懐かしい品々が即売された物産展

ふるさと特産のPR大使に

また、アトラクションでは、物
産出展業者提供のふるさと本荘の
特産品を詰め込んだ抽せんブレゼ
ントが好評を博したほか、本荘民
謡睦実会、本荘民謡踊り同好会の
皆さんによる唄や踊りが披露され
、ふるさと訪問ツアーで会員た
ちにもすっきりおなじみになった
「菖蒲音頭」では、会場に大きな
踊りの輪が出来、楽しいひと時を
過ごしました。

開店して一時間も経たないうち
に売り切れる商品が出るなど売上
は上々。恒例の物産品の抽選会
もあり、盛会のうちに終了するこ
とができました。

今後、創意工夫を重ねていきま
すが、より良い即売会とするため
に、これからは一方的に本荘にあ
るものを会場で即売するだけでは
なく、会員の皆さんからも積極的
に「これが欲しい」「これが食べ
たい」といった意見を寄せていた
だきたいと思えます。そして本荘
の物産を贈りものとして活用して
いただき、少しでも首都圏におけ
るPRに努めていただければ、即
売会の意義もより大きくなると思
います。

時空を越えて

大宮市 石垣 真理(駅前出身)
その日、私は、母を送り届けた
後、新装オープンとなった目黒雅
叙園を一人で見学するつもりで、
でかけました。

目黒雅叙園に足を踏み入れた瞬
間、「まるで龍宮城のようなところ
ろ!」という印象をうけました。
受付に着くと、「あなたも会員
になってしまえば...」と、母に
言われるまま、新会員となったの
でした。

「本荘ふるさと会」総会が始ま
ってみれば、年齢も職業も何もか
も越えて、「本荘」という言葉を
合言葉に、皆の心は開かれ、うち
とけた雰囲気の中で、時は流れて
いきました。

会場では、私よりもは
るかに大先輩の方々が、
「〇〇ちゃん」とお互い
の名前を呼びあい、ふる
さとの言葉で談笑してい
る様子を見て、とても心
が穏やかになりました。

催しの中で、とても楽
しかったのは、抽選会で
した。残念ながら母と私
は、何ひとつあたらないか
ったのですが、司会者と
当選者のやりとりは、「
良かったことおめでとう!」と
良かったことおめでとう!」と

いう言葉どおり、とても和やかで
した。照れくさそうに、当選記念
撮影をしている様子も本当に微笑
ましいものでした。おいしいお食
事の中にはふるさとの香りのする
「がっこ(漬物)も添えられて

おり、お酒の好きな方達は、秋田
の美酒で心ゆくまで杯をとり交わ
し、ご機嫌のようでした。
楽しいひと時は、あつという間
に過ぎて、お酒は一滴も飲めない
私も、すっかり雰囲気酔いに酔いし
れてしまいました。「秋田長持唄」
を耳に残しながら、「本荘ふるさ
と会」はお開きとなり、会員は各
々「龍宮城」を後にして東西南北
へと散ってゆきました。時空を越
えて、またいつか、ふるさとを語
り合う日を思いながら...

総会に出席して

ふるさととは近くに
調布市 猪股 豊(谷地町出身)
今回の本荘ふるさと会総会と懇
親会は、新装なった目黒雅叙園で
二四〇人が出席して大変盛大な
ものだった。飯田幹事長の司会の
もと荒川会長の挨拶、柳田市長の
祝辞、来賓の小野清子参議院議員
の挨拶と続いた。「冷夏に加え台
風19号の被害を受けた農作物は
作柄が平年より悪い」という報告
には、皆がやはり台風の影響を受
けたかと我が事のように案じてい
た。「今後のふるさと会の活動の基
本を平成六年の本荘市制四〇周年
に照準を合わせるので協力してほ
しい」という要請があった。会場は
本荘追分の唄と踊りが始まると最高
潮に達し、銘産品が当たる抽せん会
も松本さんの軽妙な進行で和気あ
いあいのうちに終わった。最後の締
めの音頭をとるはずだった五味副
会長は宴たけなわの途中で打切る
のはつらいといつて、つい中締め
の挨拶をしてしまうほどの盛會振
りだった。旧友と再会し、本荘弁
で語り合いふるさと本荘を近く
感じた一日であった。



特産品プレゼントの魚貝類セットが当り
思わずニコリ、インタビュー

本荘弁を背負って

マルイチみそ・しょうゆ醸造元
斎藤久一郎

七、八年程前のごですが、三〇
人ぐらいの会合の挨拶の中で「一
年にせめて一度は東京に行って新
宿の辺りでも歩いて見てはどうで
すか」と話された方がおりました。
私も薄々そんな感じを持っていま
した。
近年、旧本荘町の周辺に並ぶ新

しい建物には、ジツと本荘に居る
だけでは見ることが出来ない様
な雰囲気を持ったものが出現してき
ました。仕掛人とそれを欲した人
の合作と思えますが、今まで見え
なかつたものが姿を見せ始めたた
う気がします。

地域振興課さんより「ふるさと
会」設立に際し物産展のお誘いを
受けました。勇を決して半天を着
て初体験に挑戦しました。懸命に
標準語を話しているつもりでし
たが、いきなり「本荘弁はなつかし
いな」と言われがっかり。三年続
けて参加させて頂き、今まで遠か
った東京の距離が少し近くに感じ
られるようになりました。又「本
荘弁」を背負って参加させて頂き
たいと考えております。よろしく
お願い申し上げます。

ふるさとJUR
羽後本荘駅 村上 純一
新装となりましたホテルでの物
産展示即売会に、参加させて頂い
たまま、本場にありがとうござ
いりました。会場での皆様方を拝
見し、故郷に対する思いは、地元
に生まれ、生活している私と違い
大きな差があるように思いました。
オレンジカードを販売していま
す。「ふるさとツアー」に参加さ
れたお客様から声をかけていただ
き、お買い上げいただきました。
秋田の列車で故郷を訪問された「
ふるさとツアー」は、当駅は勿論
の事、支社全体にも例がなく、実
現できました満足感一杯ござい
ます。

当駅は、お喜びいただけれる旅づ
くりを目指して頑張っております。
今後共にご用命くださいますようお
願い申し上げます。

最後に、ふるさと会のご発展を
心からご祈念申し上げます。
(旅ニ羽後本荘駅びゅうプラザ)

新会員の紹介

この度、三六名の方が新会員と
なり、二月末現在で八六二名の会
員数となりました。紙面の都合で、
お名前を掲載出来ませんので、詳
しくは別紙名簿をご覧ください。

ふるさと本庄へのいざない

第二回本庄・由利ふるさと創作文コンクールで最優秀賞を受賞した、本庄の児童による「郷土と二十一世紀にむけたまちづくり」の作文、そして永泉寺山門、松ヶ崎の沿革をご紹介します。

私のふるさと

本庄市立新山小学校
六年 佐藤 真紀

私達が住んでいる本庄市をとりまいて、子吉川、日本海、どれも美しい風土です。どんだん都会的になってきているのに、緑が残っているの、すばらしい市だと思えます。それに、行事がたたくさんあります。例えば、9月15日の本庄祭りでは、古式豊かな大名行列、稚児の山車行列、獅子こ踊り、白幡などがみえる行事です。この日が近くなると毎日毎日おそくまでがんばって、練習しているところが見られました。こういう点が本庄に住んでいる私達のすばらしい点だと思えます。それと忘れてならないのは、石脇かぐらまいと裸まいりです。素朴な昔の人々は病氣、天災、死などを除去するために、水ごりをした若者が、小正月雪の中を新山神社をめざして歩いていきます。これは、昔からずつと行われてきています。それが今も続けられているのです。この裸まいりという伝統ある行事を二十一世紀に大人になる私達もずつと受けついでいきたいと思います。

毎年、米祭りには伝統民芸品の「ごんまり」が出品されます。ごんまりは、一つ一つさしているのです、その苦労は大変なものだと思えます。これも昔から今まで受けついできたものです。近所の人達と集まって作られたごんまりは、心のこもった民芸品という感じが伝わってきます。行事を成功させるにしても、ごんまりを作らなければならない、地味な努力を続けて、最後には心の暖まるようなものを造りあげていく、そういうところが本庄に住む人達のとて私達のふるさととはこんなにも、す

ばらしい所です。秋田から東京の大学に入った祖母の姉は、夏に本庄に帰ってきました。その時に聞いた話にこういことが出てきました。「やっぱりここはホッとするね。海、山、川がいっぱいに見わたせるし、緑も多いし、本庄にいい所だよ。」と言っていました。私にはここにもやっぱり本庄をすばらしいと思ってくれる人がいる、と思いました。続けて、「この美しい風土の中で、音楽や美術など芸術を楽しむ事ができたら、どんなに素敵だろう。人の心を和ませる施設ができれば、もっともっと楽しい良い町になるのではないかしら。」と言っていました。私もおばの話聞いてなるほどと思えました。

二十一世紀に大人になる私達がいつかなくてはならないことが分かったような気がしました。この恵まれた美しい自然を大切に守り、続けていくべきだと思います。町を発展させつつ、昔からの行事なども受けついでいきたいと思います。将来のこのふるさととは、緑の多い、心が和むような場所であってほしいと思います。そのためには、ひとりひとりが道ばたに落ちているごみを拾う、などの小さな事から始めていかなければならないと思えます。

松ヶ崎の沿革

太古の事は不明であるが、松ヶ崎村は大野村が改められたものである。延暦二〇年(七九二)坂上田村麻呂將軍が東北へ下向の時、由利八郎を郡司に任命し、大野亀井山(現下堀切山)において軍神を祭り、大野二仙を郷司に任命した。この大野の姓から大野村の名がつけられ、大野城下の名称となった。城は大野築館一現築館山にあつたと思われ、松ヶ崎は港灣の名で、古くより漁民が多く居住した。芦川は天鷲日向の家臣芦川太郎が住んだところから、この名が付いたものか、この村名から芦川氏を名乗ったものかは明らかでない。

由利一族の後、暦応二年(三三九)天鷲城の山城として池田伯耆守光貞が築館城に入り、その後赤穂津を名乗る。

慶長七年(一六〇二)由利は最上出羽守(山形城主最上義光)の領地とされ、翌八年最上の家臣榑岡豊前守湯沢城より築館城に移り、赤穂津豊前守と称した。慶長一五年築館城が狭く、本郷子吉郷本庄へ新たに城を築き移転した。大野城下の神社寺院・商工業者これに従い、多くの者が現在の古雪以東に移住した。残る者も悉く松ヶ崎へ移ったため、大野村を松ヶ崎村と改称した。元和八年(一六二二)最上氏また領地を去つた。家臣豊前守も亦この領地を去つた。



整備が進む松ヶ崎漁港と町並

永泉寺山門

本庄市の中心部に位置する永泉寺は、寺号を竜洞門と称する曹洞宗の寺院で、本庄藩主六郷家の菩提寺である。

山門は、永泉寺三六世・本郷達宜が発願し、文久三年(一八六三年)に起工、慶応元年(一八六五年)に完成したものである。棟札によれば、棟梁は尾留川惣助・竹内能平、脇棟梁は安保佐治兵衛、彫刻師は三船治喜一・後藤幸次郎である。



約130年前に建立された永泉寺山門

建物、三間一戸楼門、入母屋造、棧瓦葺で、軒は二軒繁垂木、手挟は二手先ですべて樺材である。階上には本尊釈迦三尊像・一六羅漢像、階下左右には仁王・金剛力士像を置く。作者は京都大仏師の七條左京、仁王仏師の梅津巴之吉である。また、階上板壁には、六郷家の画人、増田象江、牧野雪徳、鈴木梅山、阿部永揮らによる極彩色の天女、鳳凰、龍等の壁画があり、本庄藩主六郷政鑑の筆になる額をかかげる。

建物の建立は、本庄藩によるもので、由利郡内に残る禅宗寺院の山門として地方的特徴を強く表わし、豊富な内部文化財とともに由利郡の代表的な存在である。昭和四三年三月一九日に秋田県指定有形文化財に指定された。

本庄の学校群の変遷

本庄市立新山小学校	明6・12・12 秋田県伝習学校本庄分校附属として創立	本庄市立小友小学校	明7・3・19 万願寺小杉清太郎宅を校舎として小友小学校創設
39・10・30 男女を分離し、第二小学校を本庄女子尋常高等小学校と改称	本庄市立石沢小学校	明7・3・17 館に石沢学校の名称で創立される	本庄市立尾崎小学校
39・4 鶴舞東小学校、南内越小学校、松ヶ崎小学校、深沢分校の三校が統合	本庄市立北内越小学校	明7・3・24 内黒瀬、恵林寺内に内黒瀬学校創立される	本庄市立尾崎小学校
41・3・30 石脇山ノ神に校舎を新築し、鶴舞西・東小学校に学区制を設ける	本庄市立松ヶ崎小学校	明7・3・10 本校創立、松ヶ崎学校と称し、神ノ沢小松喜沢氏宅を校舎とす	本庄市立尾崎小学校
41・4・1 本庄市立新山小学校創立	本庄市立吉吉小学校	明7・4・5 子吉北学校を藤崎村に子吉南学校を宮内村に創立す	本庄市立尾崎小学校
明6・12・12 学校創立、鶴舞城三ノ丸(現温水プール)	本庄市立松ヶ崎小学校	昭24・12・1 校舎改築落成す	本庄市立尾崎小学校
39・10・30 校舎新築落成、男女分離、本庄尋常高等小学校と改称す(男子校)	本庄市立松ヶ崎小学校	昭30・9・24 中央校舎(埋田)増設築落成す	本庄市立尾崎小学校
41・4・1 学区制施行、本庄市立鶴舞小学校と改称	本庄市立松ヶ崎小学校	昭44・7・7 葛法分校を廃止し本校に統合す	本庄市立尾崎小学校
48・5・7 水林新校舎に移転	本庄市立松ヶ崎小学校	昭55・8・21 新校舎(薬師堂字堂ノ下)に移転す	本庄市立尾崎小学校
昭26・12・5 瓦谷地校舎に全校移転	本庄市立松ヶ崎小学校	昭29・3・31 市制施行により本庄市立小学校と改称す	本庄市立尾崎小学校
41・4・1 学区制施行、本庄市立鶴舞小学校と改称	本庄市立松ヶ崎小学校		本庄市立尾崎小学校
昭26・12・5 瓦谷地校舎に全校移転	本庄市立松ヶ崎小学校		本庄市立尾崎小学校
41・4・1 学区制施行、本庄市立鶴舞小学校と改称	本庄市立松ヶ崎小学校		本庄市立尾崎小学校
48・5・7 水林新校舎に移転	本庄市立松ヶ崎小学校		本庄市立尾崎小学校
昭26・12・5 瓦谷地校舎に全校移転	本庄市立松ヶ崎小学校		本庄市立尾崎小学校
41・4・1 学区制施行、本庄市立鶴舞小学校と改称	本庄市立松ヶ崎小学校		本庄市立尾崎小学校
48・5・7 水林新校舎に移転	本庄市立松ヶ崎小学校		本庄市立尾崎小学校

※()内数字は児童数(平成4年2月現在)
総児童数 3,583人
(昭和29年当時 5,390人)



編集後記

梅もほころびたころでは、とふるさと春の想いはせながら、第四号をおとすけします。次号から出身地・同窓グループ等の活動を紹介してゆく予定です。皆様の御連絡をお待ちしております。

《おことわり》
連載中の「本庄の話」とは、紙面の都合により休載となります。(次号掲載予定)

募金活動にご協力を!!

本庄市制四〇周年 協力事業

ふるさと本庄は、昭和二九年三月三十一日に一町六村が合併し市制を施行、平成六年に四〇周年を迎えることになりました。二十一世紀に向け「活力あふれる個性豊かなまちづくり」を目指し、本庄市利便の中核都市として着実に進展しております。

ふるさと本庄の更なる発展と本会との絆を一層深めるため、皆様から募金のご協力をいただき、市制四〇周年協力事業として本庄市へ贈呈することになりました。

何卒趣意をご理解の上、ご賛助ご協力くださいませようお願いします。尚、詳細につきましては後日ご依頼の文書を会員の皆様へ送付させていただきます。

※募金目標金額 二〇〇万円
※寄付金は一口五、〇〇〇円を予定しております。

本庄市立尾崎小学校
平3・4・4・6 開校式・入学式
県内一のマンモス校である鶴舞小学校の過密化の解消と、新山小学校の過大規模校の防止を目的に、都市化が進む本庄地区で三番目、市内では八つ目の小学校として本庄高校跡地に新設、開校